

青少年赤十字提供プログラム

提供プログラムは、大切ないのちを守るための知識と技術を学ぶ「健康・安全プログラム」、体の不自由な方や高齢者の介助の方法を体験する「福祉教育プログラム」、国内外の赤十字の活動等について実際に活動した職員等からの話を聞く「国際理解・平和プログラム」や「防災教育プログラム」など、学校生活の中で先生と生徒の皆さんと一緒に参加していただけるプログラムをご用意しています。平成25年度もご活用いただきますよう、よろしくお願いいたします。



詳しくは、兵庫県支部奉仕課まで。

2月、3月に参加していただいた学校

- 健康・安全 (AEDを使った心肺蘇生)
 - 神戸市立大池中学校
 - 神戸市立有馬中学校
 - 西宮市立苦楽園中学校 (AEDを使った心肺蘇生・三角巾を使ったぎずの手当)
 - 西脇市立桜丘小学校
- 福祉教育
 - 神戸市立鶴台中学校

講習のご案内 ~健康で安全な生活を送る知識と技術を~

平成25年度が始まりました。新しい環境でスタートされた方も多いことでしょう。まずは、その環境で安心して毎日を過ごせるように心がけたいものですね。

急病や不慮の事故から自分の身を守り、大切なひとの命を救うための正しい基礎知識と技術を身につけてみませんか？

日本赤十字社は、皆さまが健康で安全な生活を送るためのお手伝いをします。

講習会場は日本赤十字社兵庫県支部です。詳細及びその他の講習についてはホームページで。

www.hyogo.jrc.or.jp

赤十字 兵庫

検索

内容		開催日
救急法基礎講習		6月 1日(土) 7月 1日(月)
救急法救急員養成講習(2日間)		6月22日(土) 23日(日)
救急法基礎・救急員養成講習(セット講習 3日間)		5月19日(日) 25日(土) 26日(日) 6月 8日(土) 9日(日) 15日(土)
幼児安全法支援員養成講習(2日間)		5月11日(土) 18日(土) 7月28日(日) 8月3日(土)
健康生活支援講習(3日間)		6月22日(土) 23日(日) 29日(土)
科目別講習	幼児安全法	こどもに起こりやすい事故の予防と手当について 7月21日(日) 10:00~12:00
	安全法	こどもの一次救命処置 7月21日(日) 13:00~15:00
	救急法	ぎずの手当て 7月21日(日) 15:30~17:30

○科目別講習は、ひとつの科目を選択していただくことも可能です。

平成25年度もよろしくお願いいたします。

平成25年度がスタートしました。兵庫県支部は県民の皆さまに安全安心な毎日を送っていただけるよう、災害救護や救急法等の普及など、いのちと健康を守る様々な活動に努めてまいります。

今年度も赤十字活動へのより一層のご理解と、あたたかいご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



ひょうごの赤十字

2013 APRIL 4月

- 県内赤十字施設集結!災害拠点病院研修を開催
- 赤十字救急法ミニ講習会を開催
- 平成24年度第2回地区赤十字奉仕団委員長会
- 姫路赤十字看護専門学校卒業式
- 山陽電鉄荒井駅横踏切特急電車衝突脱線事故
- 青少年赤十字提供プログラム
- 講習のご案内
- 平成25年度もよろしくお願いいたします。

 日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目4番5号
TEL.(078)241-9889 FAX.(078)241-6990
<http://www.hyogo.jrc.or.jp/>



県内赤十字施設集結!災害拠点病院研修を開催

～地域住民の皆さんと共に、大災害に備えて～

2月23日(土)、中播磨地域の災害拠点病院に指定されている姫路赤十字病院で、地元の姫路市下手野自治会、姫路市姫路西消防署の皆さんをはじめ、姫路赤十字看護専門学校の看護学生有志の皆さん等、約250人の参加により、災害拠点病院研修を行いました。

災害拠点病院とは、24時間いつでも災害の緊急対応ができ、被災地域内の被災患者の受入れや治療、さらには救護班の派遣が行える等の機能を備えた病院をいい、神戸赤十字病院と姫路で交互に訓練を行っています。

午前9時30分、山崎断層による震度6強の地震が発生!姫路赤十字病院、兵庫県支部をはじめ柏原・多可・神戸赤十字病院の救護班や血液センターが、負傷者受入れに必要なエリアを設営し、次々に運び込まれてくる負傷者の皆さんの病院前トリアージ(傷病者判定基準)や病院内への移送、さらには重症・中等症・軽症それぞれのエリアでの処置などを行い、負傷者の皆さんの受入手順や連携を確認しあいました。

兵庫県支部では今後も緊急時に備え、県内各赤十字施設の連携と災害対応力の強化に努めてまいります。



各エリアで行われる傷病者に合わせた処置



トリアージエリアからは症状により搬送

赤十字救急法ミニ講習会を開催

～あなたにも、救えるいのちがある～

2月23日(土)、イオン明石ショッピングセンターで、赤十字救急法のミニ講習会「知っていれば安心!心肺蘇生とAEDの使い方」を開催しました。

買い物ついでに寄ってくださった方はもちろんのこと、ホームページを見て、このイベントのために来られた方々など、約60人の皆さんにご参加いただきました。

この日は親子連れでの参加も多く、子どもたちは、見たこともない人形とAEDに興味津々で、お父さんやお母さんと一緒にジッと指導員の話しに聞き入っていました。

「やっぱり普段から訓練しておいた方がいいですね」と、元看護師という女性や、「ちゃんと覚えて、お母さんのこと助けてよ」と、会話していた親子、皆さん楽しくAEDの使い方と心肺蘇生を覚えていただくことができました。

このほか、東日本大震災の救援・支援活動の紹介パネル展示や震災に関するビデオ上映、救援物資は手に取って見ていただくなど、赤十字の災害救護活動のPRも行いました。

ショッピングセンターや学校などへのAEDの普及は進んでいますが、使い方を知らない方も大勢いらっしゃいます。大切ないのちを救うことへの関心の高まるイベントとなりました。



ほくも頑張って、助けるからね



熱心に体験していただきました

平成24年度第2回地区赤十字奉仕団委員長会

3月1日(金)、ひょうご女性交流館で「平成24年度第2回地区赤十字奉仕団委員長会」を開催しました。

この委員長会は年2回実施しているもので、今回は地区赤十字奉仕団委員長等67人が出席。

兵庫県赤十字奉仕団の北野委員長、兵庫県支部の藤原事務局長からの挨拶の後、角谷奉仕課長から「平成24年度兵庫県支部事業報告」と「平成25年度事業計画」の説明がありました。

続いて、平成24年度モデル奉仕団の活動報告が行われ、「高齢者、子育て支援に関する活動」をされた神戸市東灘区と姫路市の赤十字奉仕団からは、児童福祉施設でのクリスマス会や餅つき大会、地域の子どもたちとの交流の様子などを報告。また、「地域防災の活動」をされた尼崎市、淡路市、加東市の赤十字奉仕団からは、地域での防災訓練や災害に備えた学習会などの活動が発表されました。

活動報告をされた奉仕団の委員長の皆さんからは、これらの活動を通して地域や団員間の絆を深めることが出来たとの嬉しい感想が述べられました。



地区赤十字奉仕団委員長の皆さん

姫路赤十字看護専門学校卒業式

～「人道」をここに、赤十字の看護師になる決意を～

3月8日(金)、姫路赤十字看護専門学校で卒業式が挙行され、36人が巣立ちの日を迎えました。

湯浅学校長から卒業生一人一人に卒業証書の授与と、「東日本大震災で、長期的に災害救援を続けることができたのは赤十字だけでした。皆さんも人道の心を持って、卒業後も日々学習し続ける看護師になって下さい。」との言葉が贈られました。紺色の救護員制服を着用した卒業生たちは、凛とした姿で卒業式に臨み、これから看護師になることへの決意を秘めていました。

卒業生を代表して田路倫子さんが「赤十字の基本理念である人道を、看護で具現化できる看護師になれるよう日々努力します。」と力強く決意を述べました。

卒業を記念して、兵庫県日赤有功会北村会長から、印鑑付ボールペンとペーパーウェイトが卒業生全員に贈られました。また卒業生からは、東日本大震災の義援金と赤十字の活動資金が、兵庫県支部藤原事務局長に手渡されました。



決意を述べる田路さん



救護員制服も凛々しく

山陽電鉄荒井駅横踏切特急電車衝突脱線事故

～姫路赤十字病院からの報告～

2月12日、午後4時15分。兵庫県広域災害・救急医療情報システムから、エリア災害発生第1報入電のアラームが鳴った。内容は「山陽電鉄荒井駅西側路上で特急列車6両が横転しており、負傷者にあたっては不明」とあった。直ちに姫路赤十字病院では負傷者受入可能人数をシステム入力し、院長と災害医療コーディネーターである八井田救急部長に事故発生が伝えられた。

続いて、兵庫県支部の竹中事業部長へ事故の報告。部長からDMAT(災害派遣医療チーム)待機準備の指示により、即座に資機材の積込みと要員への参集を行い、午後4時30分に出動態勢を完了させた。

情報量が少なかったため、ネット、テレビ、ツイッター等で情報収集すると、列車は横転ではなく脱線であったことが判明。重傷者1名搬送済、トラック運転手を含む残りの乗客は全て軽傷であったことが確認された。

再び支部と情報確認し、近隣の医療施設での受入が可能な傷病者数であるとの判断により、4時47分、DMAT派遣要請は解除となった。

平成17年に発生した尼崎の脱線事故が頭をよぎったが、今回の事故は幸いにも重傷者が少なかったため、DMATの派遣には至らず、待機していた救護員等もほっと胸を撫で下ろした。